

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●吉田豊騎手がJRA通算1万7000回騎乗を達成

3月12日(土)の2回中山5日・第10レースとして行われたアクアマリンSでペコリーノロマーノに騎乗した吉田豊騎手(美浦・フリー)は、史上12人目、現役9人目となるJRA通算1万7000回騎乗を達成しました。

### ●今村聖奈騎手がJRA初勝利をあげる

3月13日(日)の1回阪神10日・第8レースではブラビオが1着となり、同馬に騎乗した今村聖奈騎手(栗東・寺島良厩舎)はJRA初勝利(17戦目)をあげました。

### ●村田一誠調教師がJRA初勝利をあげる

3月13日(日)の2回中山6日・第12レースではリワードマレンゴが1着となり、同馬を管理する村田一誠調教師(美浦)はJRA初勝利(延べ35頭目)をあげました。

### ●ペルシアンナイトらの競走馬登録抹消

2017年マイルチャンピオンシップ(GⅠ)などの勝ち馬ペルシアンナイト(牡8歳/栗東・池江泰寿厩舎/JRA通算34戦4勝・海外2戦0勝)、2020年兵庫チャンピオンシップ(園田・JpnⅡ)の勝ち馬バーナードループ(牡5歳/美浦・高木登厩舎/JRA通算7戦2勝・地方2戦1勝)、2021年福島牝馬S(GⅢ)などの勝ち馬ディアンドル(牝6歳/栗東・奥村豊厩舎/JRA通算21戦6勝)、2020年新潟チャンピオンS(J・GⅢ)の勝ち馬フォイヤールヴェルク(騾9歳/栗東・池江泰寿厩舎/JRA通算36戦7勝)、2019年函館記念(GⅢ)の勝ち馬マイスタイル(牡8歳/栗東・昆貢厩舎/JRA通算33戦5勝)、2020年テレビ西日本賞北九州記念(GⅢ)などの勝ち馬レッドアンシエル(牡8歳/栗東・庄野靖志厩舎/JRA通算26戦6勝)は、2月16日(水)までに競走馬登録を抹消されました。ペルシアンナイトとマイスタイルはJRA馬事公苑で、レッドアンシエルは滋賀県甲賀市の甲賀ファームで乗馬となり、フォイヤールヴェルクも乗馬となる予定ですが繋養先は未定。バーナードループは地方・浦和競馬に移籍し、ディアンドルは北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●黒船賞(高知)はJRA出身のイグナイター(兵庫)

黒船賞(JpnⅢ、3月16日、高知、1400m)は、3番手から4コーナーで内を突いて先頭に立った3番人気の兵庫所属馬イグナイター(田中学騎手、牡4歳、父エスポワールシチー)はそのまま押し切り、ダートグレード競走初制覇。2番人気のヘリオスが2着に入り、サクセスエナジーは4着、逃げた単勝1.8倍で断然人気のラプタスは6着、トーラスジェミニは8着に敗れました。なお、ピンジャンは感冒のため出走を取り消しています。

### ●名古屋競馬場が弥富移転のため3月11日で閉場、73年の歴史に幕

1949年に開場した名古屋市港区の名古屋競馬場は、愛知県弥富市の弥富トレーニングセンターを競馬場化して移転(名称は名古屋競馬場のまま)するため、3月11日(金)の開催を最後に閉場となり、最終レース終了後には閉場式典が実施され、約3900名の来場者が名残を惜しまました。弥富の新・名古屋競馬場は4月8日(金)にオープンし、旧名古屋競馬場の第2、第3スタンドでは、サンアール名古屋(J-PLACE名古屋)の名称で場外発売を継続します。

### ●ヴェルテックスらが出走、3月23日のダイオライト記念(船橋)

ダイオライト記念(JpnⅡ、3月23日、船橋、2400m)は、2500mの名古屋グランプリの優勝馬ヴェルテックスが最有力、以下メイショウカズサ、昨年の覇者ダノンファラオ、エルデュークラージュ(船橋)、エブリワンブラックまでが争覇圏内と考えられます。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G1オーストラリアンC~デュアアイスが2馬身差で快勝

現地時間3月12日にオーストラリアのフレミントン競馬場で行われたG1オーストラリアンC(3歳上、芝2000m)はJ.パー騎手が騎乗したデュアアイス(牝4歳、父シェイマスアワード、E.カミングス厩舎)が後方待機から直線で鋭く伸びると、G1ジョージライダーSの勝ち馬シンクイットオーバーに2馬身差をつけて快勝しました。デュアアイスは昨年6月のG1クイーンズランドオークス(芝2200m)でG1初制覇。今シーズンは前走のG1チップングノートンS6着まで6戦1勝という成績でしたが、大舞台で巻き返しました。

### ●G1ニューマーケットH~単勝101倍のロックンホースが制す

上記G1オーストラリアンCの1レース前に行われたG1ニューマーケットH(2歳上、芝1200m)は、二手に分かれた馬群の内、内ラチ沿いの集団でレースを進めたロックンホース(牝5歳、父ペルイカント、M.モロニー厩舎)が優勝。単勝101倍の最低人気馬が大穴をあげました。G1初制覇となったロックンホースはM.モロニー&P.ジェラード厩舎の所属馬としてニュージーランドで走り、今年1月の前走G1テレグラフSでハナ差の2着。その後、M.モロニー調教師がオーストラリアに持つ厩舎に移って、ここに臨んでいました。鞍上のP.モロニー騎手もG1初制覇です。